

デンソー山岳部 2017年度 冬山合宿報告書

■山城 八ヶ岳

■日程 2017年12月29日～31日

■メンバー 館谷(CL、会計)、谷川(SL、装備)、鈴木(食料)、藤本(記録)



概念図

<第1日目> : 12/29(金)晴れ後曇り【藤本 記】

【行動記録】歩行時間＝4時間40分（休憩含む）

美濃戸口（7:40）→赤岳山荘（8:10）→赤岳鉱泉（10:00）→テント設営→赤岳鉱泉発（11:20）→硫黄岳山頂（13:00）→赤岳鉱泉（14:10）

雲一つなく澄み切った青空の下で気分良く冬山合宿が始まった。気温はそれほど低くなく、緩やかな林道を歩き続けると汗ばむほどであった。赤岳鉱泉までの道に雪はほとんどないが、所々アイスバーンになっている箇所があり注意して進んだ。最大の難所は赤岳山荘手前の10mほどの上り坂。何も知らずに轍を歩いた藤本が転倒した。轍は要注意。

赤岳山荘、堰堤広場で一本をとり予定時刻に赤岳鉱泉に到着。朝から快晴であったが、テント設営を始めたころから阿弥陀岳の山頂にガスが湧き始めた。テント設営後に赤岳鉱泉を硫黄岳に向かって出発。赤岩の頭の手前で一本を取るまでは樹林帯が続き、風がないと暑かった。赤岩の頭以上は稜線に出るため一本とると同時に防寒着を着用した。稜線に入るとガスによる視界が悪くなり、強風にあおられ、鈴木に軽い高山病と思われる息切れの症状が出たため歩行ペースが落ちた。目立った危険箇所はなかったが慎重に上りつめ、予定時刻に硫黄岳山頂に到着。写真撮影後に下山開始。樹林帯まで下って一本を取り、防寒装備を解除。そこから赤岳鉱泉まで一気に下山し、ほぼ予定時刻に鉱泉に到着した。

テントに戻ってからは15時頃から宴会が始まった。各自が持ち寄ったつまみと不破さんからの差し入れの牛しぐれ(とても美味しかったです。不破さんありがとうございました。)を肴に延々と飲み、カレー鍋で温まり、21時に就寝。

稜線に出てからは生憎の天候であったが、雪山経験の浅い藤本、鈴木にとっては強風にあおられる良い経験となった。翌日の赤岳はさらに強い風が予想されており、本日の経験を生かせるという点で有意義な山行であった。



硫黄岳山頂

<第2日目> 12/30(土) 曇り後晴れ 行動時間3H55M 【鈴木 記】

赤岳鉱泉(6:40) — 行者小屋一本(7:11) — 阿弥陀岳分岐(7:23) — 文三郎尾根分岐(8:25) — 赤岳(8:56) — 文三郎尾根分岐(9:31) — 行者小屋 一本(10:16) — 赤岳鉱泉・アイスクランディングタイム

5:00起床。夜中の風が強くテントがバタついてうるさくてよく眠れなかった。朝食は、各々持参食を手早く食した。29日夜の天気予報で30日午前中は、風が強い、午後より回復とのことで地蔵尾根からの登りを文三郎尾根のピストンに変更。夜中の風は収まり穏やかな曇り天気であった。ハーネス・ヘルメットを装着し出発、前日の山行で鈴木がバテたため、ゆっくりめのペースでスタートした。雪は深くなく普通に歩けた。稜線に出る直前でフード、ゴーグルを整えた。稜線に出ると予想通り風が強く注意深く進んだ、最後の急登は、岩と雪のミックスでアイゼンの前爪をしっかり意識し登りつめた。頂上手前は風が弱まり、天気も回復し素晴らしい展望を眺め写真に収めた。11月の偵察山行時は真っ白で何も見えなかったが今回は、富士山もはっきり見えて非常に良かった。頂上では、メンバー同士でハイタッチして喜びを分かち合った。やはり寒いので早々に来た道を下山開始。登ってくる方にルートを譲りながら慎重に下って行った。

行者小屋で1本、行動食でお腹を満たした。中山乗越を越え、鉱泉への道を駆け下りる。10:35赤岳鉱泉。少々休憩後、鉱泉のアイスクランディングでアイスクランディングを楽しむことにした。谷川は、右肩不調(50肩?)のため不参加。館谷は、アックスを新調してきており試すのを楽しみにしていた。アイスクランディング用アイゼン3種とグリベルのアックス1種をレンタルして氷壁に向かった。鈴木と藤本は、初体験で緩いコースからやりたかったが、結構込み合っており、垂直の壁でチャレンジすることとなった。館谷がまず登るが、見た目には、自分が登れるか不安だった。しかしやってみるととても楽しい、1本目は、途中でリタイヤしたがだんだん慣れ、最後は、垂直の面を登り詰めて達成感で満たされた。

その後テント内で、持ち寄ったアルコールで宴会そして、鍋を囲んで楽しいひと時を過ごし 就寝(20:30)



天気回復 素晴らしい展望



山頂 右奥に富士山



左からクライマー館谷、クライマー藤本、クライマー鈴木

<第3日> : 12/31（日）晴れ後曇り 【谷川 記】

【行動記録】 歩行時間＝1H55M

起床（5:30） → 赤岳鉱泉（7:30） → 美濃戸口（9:25）

前日の白湯鍋+ラーメンの汁か、お酒の飲み過ぎか、夜中に喉がカラカラで何度か起きた。水筒の水を飲んでまどろみながら朝を迎えた。昨夜よりは暖かく、最終日ということで、帰るだけなので緊張感が無い。各自朝食だが、自分は「日清食品 カップヌードル ぶっこみ飯」というもの。α米に近く、お湯のみでは少々固かったが、おいしく頂く。



最終日朝



林道凍結部

テントを撤収し、楽しかった赤岳鉱を後に、赤岳山荘を目指す。標準コースタイムは1時間30分で

ある。下り基調で、行きで重かった食料・酒類が無い分、足取りは軽い。例年、手こずる沢凍結の箇所は雪のみで楽勝である。しかし、途中の完全凍結林道は凄かった（写真右）。でも脇道で難なくクリア！と思ったが、油断した藤本君が滑った（大した事もなく安心）。

途中8時頃、堰堤（えんてい）広場付近で1本し、赤岳山荘8時40分で1本。残りは林道のみだが、凍結アイスバーン状態なので、途中何度か滑る。鈴木さんはこの日のためのワントッチアイゼンを装着し、余裕だった（ただし、値段相応でチェーンが破断したようだ）。最後の最後で、私も滑ってこけた。一番の核心部かもしれない。

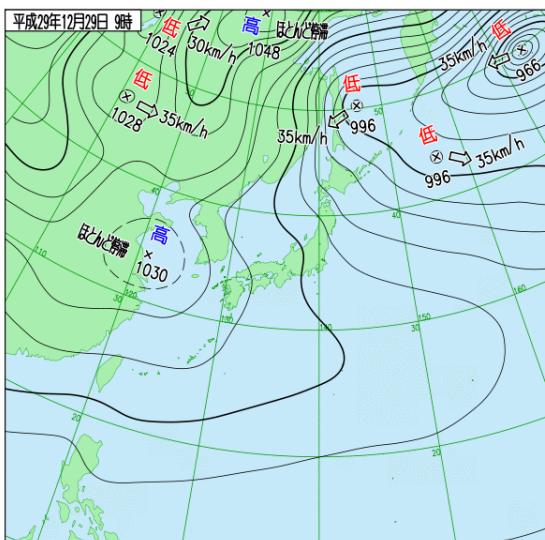
9時25分に無事、美濃戸口の駐車場に到着。もみの湯に浸かって、帰宅した。

<装備報告> 【谷川】

当初は6人かと思われた参加者も4人となり、V8でなくエスパースで軽量化し、今回は内張りと外だし荷物を保護するレインフライとした。テントの風は恐らく10m程度で問題はなかったが、寒さ対策にはならなかった。

<気象報告> 【藤本】

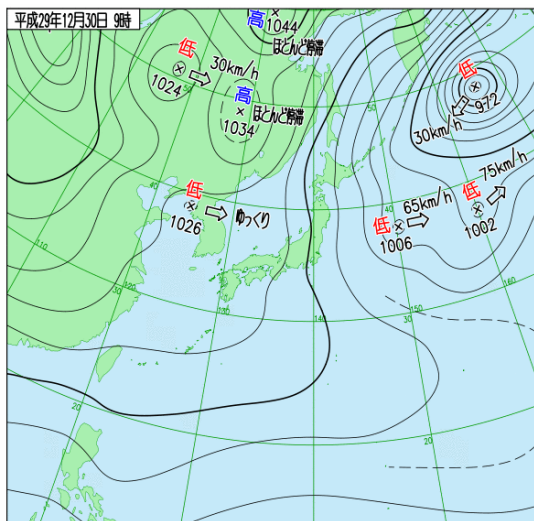
・12月29日



西からの高気圧で冬型が緩み晴れた。

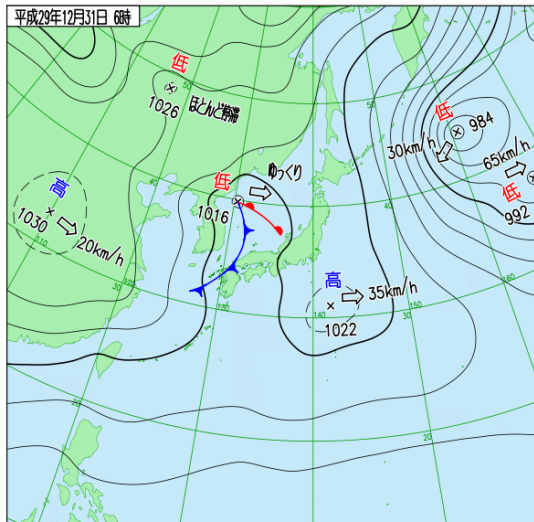
昼前からは弱い谷の影響で雲が生じ、硫黄岳山頂ではガスに覆われた。

・12月30日



朝から晴れるが稜線では北西風が非常に強い。午後からは風がおさまり好天となった。

・12月31日



晴れ。寒さも緩んだ。

<会計報告>

合計28000円

1人7000円

食料 2000円

テン場代 8000円

駐車場 3000円

【交通費行き】※帰りは帰宅組と年越し山行直行組に別れたため個別清算とした。

鈴木号 合計6000円(5990)

ガソリン代:1470円(210km÷20×140)

高速代:3470円(藤岡→諏訪南)

消耗費:1050円(210km×5)

館谷号 合計9000円(8963)

ガソリン代:4078円(233km÷8×140)

高速代:3720円(豊田南→諏訪南)

消耗費:1165円(233km×5)

<食料報告> 【鈴木】

日付	12/29(金)	12/30(土)	12/31 (日)	※行動食は各自で用意 ※非常食 1食を各自 持参
朝食	各自	手早く食べられる物を各自準備 ※お湯は沸かす	手早く食べられる物を各自準備 ※お湯は沸かす	
昼食	各自	各自		
夕食	カレースープ鍋 + めうどん (パン)	白湯鍋 + めラーメン		
その他	※おつまみ、ドリンク（コーヒー等）は各自準備 ※お酒は各自準備			

・2夜目の白湯ラーメンは、塩コショウで味を調整できて、美味しくいただけました。



香り立つスパイスで芳醇な味わい
スープカレー鍋

チキンブイヨンと香味野菜に20種以上の香辛料で香り立つスパイスが効いた芳醇な味わいが楽しめます。



豚骨と鶏ガラの濃厚スープ
濃厚白湯

豚骨・鶏がらベースの濃厚な白湯(バイタン)スープ。どっさり野菜と相性ぴったり。



<リーダー所見> 【館谷】

昨年に引き続き、南八ヶ岳での合宿でした。雪の状態は良く、風はほどほど、展望にも恵まれ、本合宿の目的である雪山初心者のステップアップにはこれ以上ないコンディションであったと思います。唯一の心残りとしては、テント装備を背負っての深雪のラッセル、耐風姿勢を取らざるを得ないほどの暴風、といった雪山の厳しさがなかったことです。経験の浅い方は、今回のように素直に登れる場合ばかりじゃないことを忘れないでいて欲しいです。

ピークハントだけではなく、テントでの食事、宴会、アイスクャンディーと、今回も楽しい山行となりました。同行メンバーに感謝します。

<感想>

谷川

重量ザックを背負っての山行は1年振りでしたが、縦走でなく助かった。五十肩で右腕が重く、アイスクャンディは酒の肴になったが、他のメンバーの元気さに脱帽でした。メンバーに感謝、また来年も頑張りたい。

鈴木

雪山二年目ですが、本格的にテント泊で行った初めての雪山とても良かったです。
赤岳、横岳、硫黄岳縦走もしてみたいです。

藤本

過去2度の雪山は末端の冷えやウェアの調整に悩まされたが、BDのグローブ、インジンジのライナーソックス、足用カイロを用意したこと、寒さの予測がある程度できるようになったことで改善された。まだ山行前の準備の要領が悪いので、経験を重ねて改善していきたい。楽しみにしていたアイスキャンディーはまったく歯が立たず苦い思いをしたのでまたチャレンジしたい。山行、宴会、クライミングと楽しい時間を共有できたメンバーに感謝します。